

『コミュニケーション能力』の意味

面接や志望理由書を書く際に、自分の長所やアピールポイントとして「コミュニケーション能力が高い」ことを挙げていた人も多かったですね。でも「コミュニケーション能力」って本当のところどういう能力？社会人になる前に、再度確認してみましょう。

進路講話講師：宇佐美正利氏の考える
「コミュニケーション能力」

1. 黙っていられる力

全校朝会、様々な式典、授業開始時など。誰かが話を始めようとしているのにいつまでもペちゃくちゃ喋っている人いますよね？話を聞く姿勢・準備ができない人は社会人失格。

2. 人の話を聞き取る力

仕事をするときに「記憶」をする人は伸びない。「記録」をする人が伸びる。メモを取らないと伸びない。メモを取る習慣があることがとても大切。

※伝える力は最後でよい

人の話をよく聽ける人は
よく話せるようになる

※宇佐美氏講演会資料より抜粋

高校生の考える

「コミュニケーション能力」



- 人見知りしないで誰にでも話しかけることができる
- 空気をうまく読める
- 自己主張ができる
- 協調性がある
- 雰囲気をなごませる
- テレビ番組のMCのようにうまくその場を仕切って回せる



企業が求めるコミュニケーション能力

聞く力	話し手の言葉を聴くのと同時に「心の動きを聴く」ことのできる力。相づちを打つ。話の腰を折らない。話しかけやすい雰囲気を心がける。
観る力	相手が今どんな状態にあり、何を考えているのかを理解しようと心を配る力。
感じる力	相手の心理状況をくみ取った行動をとり、相手との距離を感じながら近くづく能力。自分の行動が相手にどのように影響するかを常に考える。
質問する力	言葉によって相手との適切な関係をつくるとともに、相手の気づきを促進して次の行動を働きかけることのできる力。
伝える力	相手が話すことに対して効果的に返して関係強化を図る力。相手が理解しやすいように伝え、内容を要約することができる。

きちんと話す力同様に、コミュニケーション能力の中核として企業が重視するのは

『文章を書く力』

依頼や報告、連絡など、あらゆる仕事は「きちんと書く能力」を必要とします。ツイッターの短い文章やスタンプで自分の気持ちを友人に伝えることはできても、「論理的に書く」という力が世界的に低下しているのだそうです。

元マイクロソフトのエンジニアもプログラマー全員に文章力を磨くように助言しています。わかりやすく意思の疎通ができなかつたり、適切に言いたいことが言えなかつたりすると、仕事で伸びることはできないとまで言われています。